

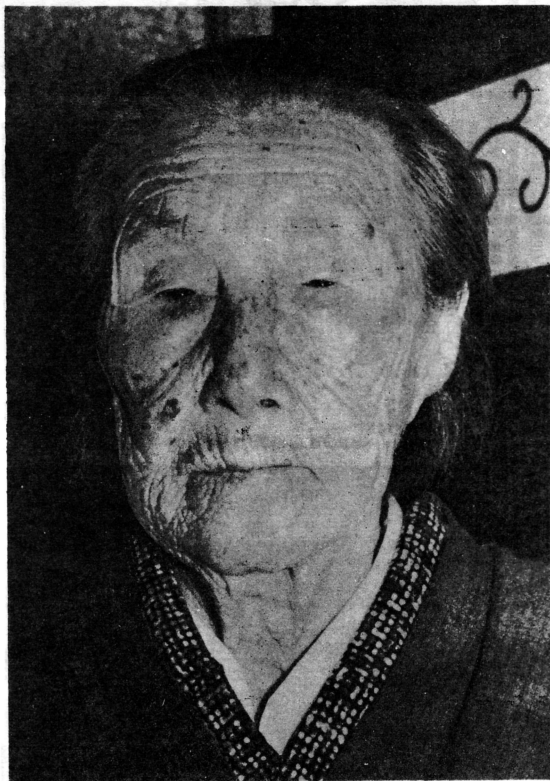
広報



# しうら

## おゆな内容

- 2 P 農協合併子備契約調印
- 3 P 県民体育大会の結果
- 4.5 P 長寿者番付写真特集
- 6.7 P 秋の交通安全運動に寄せて
- 8 P ふるさとの歴史



山内たみ子さん

笹山たみさん。明治九年七月十日生れ、九十六才。  
 明治、大正、昭和の三代を生きぬいてきた人とは思えないほど目も耳も輝かで、ひたひたにきざまれた深いしわのほかには最高令者を

感じさせない。  
 朝は六時の時報とともに起床。夜は八時に就寝と規則正しい。三度の食事は軽く、なんでもよく食べる。漬物は欠かしたことがないという。好きなものは魚と海藻類。日課の一つは散歩。家のまわりをゆっくり歩く。これまで病氣らしい病氣は七十二才のとき、盲腸炎の手術を受けただけ。百才を目の前にして益々元気な笹山さんである。  
 (関連記事六・七面に)

9 下旬号  
 No.72

# 市浦農協・合併予備契約に調印

## 来年二月からスタート 畜産の振興拡大目ざして



合併予備契約書に調印する小笠原（市浦）加藤（小泊）両組合長

市浦村農協と小泊農協が合併することになり、去る八月三十日、相内児童館で合併予備契約に調印しました。

二つの組合はこのあと地区ごとの座談会、総代会を開き、十二月一日に総会を開いて明年二月一日からスタートします。行政区域を越えた広域農協の合併は県内で二番目です。

調印式には合併促進協議会長・小川村長、副会長・藤田小泊村長、中島富雄県経済課長、三上兼四郎県農協中央会長、小野村正己北地方農林事務所長のほか小笠原市浦村農協組合長、加

藤勇蔵小泊農協組合長、各役員が出席しました。

両農協の合併は七月十四日、促進協議会が発足してから急速に進み、具体化しました。市浦村農協は組合員数三百三十七人、水田面積四百五十畝、肉用牛三百六十頭に対し小泊農協は百九十九頭と小規模なため市浦が小泊を吸収する形となつたわけです。

合併後は県農協中央会の指導で畜産の振興拡大を柱に運営することになっていますが、小泊では不振だった信用、販売、購買、共済などを拡大しあわせて組合員の増加をはかります。

合併の方法は市浦が吸収の形をとる、両農協とも十二月一日予定の総会で決議し、小泊農協は解散の形をとって四十八年二月一日にスタートの予定です。所在地は市浦村に置き、小泊は支所となります。また職員は身分、組合員の資格はいままでどおりです。

一方、役員は市浦はそのまま理事十人、監事三人から三人、監事は三人から一人になります。

なお、出資金額は、現行市浦が一口五千円、小泊三百円ですが、二年以内に五千円に増資されることになります。



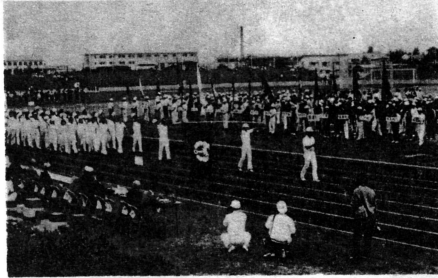
調印が終わり、拍手のなかでこやかに握手

### 人のうごき

#### 市浦営林署

- △青森局経営部 菊池章 (市浦署長)
- △市浦署長 (市浦署長)
- △市浦署長 (市浦署長)
- △新町署 熊谷和彦 (庶務課長)
- △青森局 三浦忠義 (事業課長)
- △久慈署 業所主任 高谷健 (小泊事業所)
- △金木署 藤田剛 (小泊事業所)
- △青森署 鈴木利雄 (同)
- △盛ヶ沢署 葛西和男 (土木係)
- △事業課長 菊池久吉 (気仙沼署)
- △庶務課長 神繁雄 (野辺地署)
- △小泊製品事業所主任 佐藤力男 (宮古署)
- △小泊製品事業所 三浦徳三郎 (山田署)
- △同 田村光治 (鮎川署)
- △市浦製品事業所 小笠原俊信 (協野沢署)

# 第27回県民体育大会



本村選手団堂々の入場行進（旗手は工藤広直君）



陸上1500メートル決勝、力走する佐藤二郎選手

## 総合(村の部)第三位を獲得

### 女子バレー初優勝

第二十七回市町村対抗県民体育大会は八月二十六、二十七日の二日間、県営競技場を中心に十三会場で行なわれましたが、本村は五十四人の選手団を送り六種目に善戦健闘し、なかでも女子バレーは初優勝の栄冠を獲得、村の部総合で堂々第三位入賞を果たしました。

結果はつぎのとおり。

- ▽男子八〇〇リレー 決勝五位(成田慶蔵、成田義正、吉田誠一、三和省勝)
- ▽同一〇〇リレー 決勝〇六位、秋田谷勇男(二三秒〇)
- ▽走中とび 四位、成田慶蔵
- ▽準決勝 市浦三二二勝野沢、二回戦 市浦三二二勝野沢、一回戦 市浦三二二勝野沢
- ▽準決勝 田舎館三〇市浦
- ▽宮本一郎、岡本隆雄、奈良孝一、吉田貞子、木村房子、三浦弘子
- ▽準決勝 平館三二市浦
- ▽準決勝 三和金春、大性多喜雄、吉田重夫、笹山精真、佐藤昭憲
- ▽準決勝 脇野沢二〇

- 市浦 (丁子谷悟、西谷俊一、島谷幸子)
- (バレー男子)
- ▽準々決勝 南郷二一市浦
- (相川常雄、三浦忠雄、三和均、秋田谷清春、笹山明和、成田義正、三和清規、工藤広直、三和剛雄)
- (バレー女子)
- △準々決勝 市浦二一〇相馬△決勝 市浦二一〇小泊△決勝 市浦二一〇風間浦(バレーは総合第二位となる)
- (安保勝雄、丁子谷直子、今律子、三浦良子、米谷ゆき子、佐藤久子、工藤美里子、三和のり子)
- (総合得点)
- ①田舎館(八一・五) ②市浦(三四) ③市浦(二九)
- ④三和(二三) ⑤小泊(二五) ⑥六所(二二)
- ⑦岩崎(二一・五) ⑧稲垣(二一) (参加したものは二五村です)



### 出かせぎ相談について お知らせください

問 出かせぎのことについて相談したいのですが。(勝元地区M生)

答 出かせぎについての相談は、企画室に設けている「出かせぎ相談所」をご利用がなっています。

出かせぎは、それによって生ずる、家業への影響、子どもの教育、家庭生活、労働による災害、音信不通など、いろいろな問題がありますが、事故が発生してからの相談だけでなく、未然に防止する相談に特につとめていただきます。

さらに、同じ境遇にあるかたが、いろいろの問題を話し合い、意識を高めるための出かせぎ団体をつくることも、促進しています。また、近いうちに出かせぎ者留守家族の会を結成の予定です。



# 秋の交通安全運動に寄せて

秋の全国交通安全運動は、二十一日から十月一日までの十日間行われます。

編集室では、この運動に呼応して、いろいろなかたがたに登場ねがい、それぞれの立場から「交通安全」に対する考えかた、意見、感想を寄せていただきました。みなさんの考えていることもかみ合せ事故防止につとめましよう。

## 行動・判断力・協調の

### 精神がたいせつ

相内・団体職員 米倉正三(19)



現在では、いくら交通安全全運動をやっても、事故は一向に減っていないと思えます。そこで、これはどうしようというところであろうかと考えますが、なかなかむずかしい問題です。交通安全に対して、私が日ごろ考えていることは、自分自身の行動、判断力、協調性の精神が一番大切ではないかと思っています。

また、車を運転するにあたっては、常に心を引き締

## 交通道徳を守り、腐敗の行動をつつしむこと

十三・公務員

福井 友子 (23)



不快な言葉により刺激される精神的被害は、同武器の言葉で攻撃するという手

## 飲酒・スピード違反をなくしよう

協元・主婦 竹谷 好江(30)

テレビ、新聞のニュースとして報道されている交通事故は、目にあまるものがあります。

ドライバーである私自身もこの起らないよう、日ごろから「注意一秒、ケが一

生を心の教訓としている。さて、事故をなくするには、第一に飲酒運転は絶対にやめること。私も現に同乗し

ドルはふらつく、で事故が目の前にぶらさかっているようなものでした。本当にラハラ身のおちちる思いがしたものです。

第二はスピードの出しすぎ、おき見運転です。これはドライバーの注意一つで追放できるでしょう。しかし、なんとしてもドライバーだけでなく歩行者ひとりひとり注意も必要なのは、いうまでもありません。



たことがあるけど、酔っぱらいはスピードは出さず、急ブレーキはかける、ハン

## 老人も交通法規を身につけよう

老人夕連合会長 三上勇之助(72)



四日市公署は煙突から排気ガスを出して人を殺し、東京に住む人間も公害で生命が危険にさらされている。毎日の新聞テレビに出ない日がない程である。それに加えて自動車公害(事故)である。道路が狭くなるの歩く道のはつきり区別されてはいる所はまれである。それに自動車の数が多いこと、事故のふえるは当然である。事故のため死亡す

る数は年々多くなっているという。

その他の公害は自衛手段もある程度可能だと思ふ。しかし自動車事故だけは違う。私どもは万全の注意を払っても、相手は突然やってくる。いつ、どこで殺されて来、かわからない。特にわれわれ老人は気持ちは若いながら年に応じて体が弱くなって来る事も確かです。そこで私共は現場か警察をお願いして交通規則や自分を守るための勉強を積極的にして事故一つでも無くするよう努力、努力す。考えです。昨日、今日も各方面で血の自動車事故は起きています。

### あしたはわが身に

#### ならないために

太田 教員 斎藤 友男(39)



に安全施設の整備や道路の改良が進み、交通指導取締りを強化しても、交通通達、交通ルールそのものの知識

思想が低く、全ルールを無視した運転や歩行がなされ、近いならば到底交通安全は期待できない。

交通安全の知識を身につけて正しい運転、正しい歩行に心がけ「あしたはわが身」にならないようにしたいものです。

最近の交通事故の激増ぶりはどうなることもできないような大きな社会問題となつています。

「あしたはわが身」なのかもわかりません。秋の交通安全運動の機会に事故をなくするにはどうしたらよいか考えてみたい。

道路交通の主体は運転者であり歩行者である。いか

### 自分自身が心に誓って

#### 安全運転の励行を

脇元・家事手伝い 笹山美知子(22)



まもなく秋の全国交通安全運動が始まりますが、年々全車の数が増えるとともに交通事故も多くなつていま

す。私も運転して三年になりますけれど、まだまだ未熟で、あまり大きなことは、言えません。事故を起さないためには、やはり自分自身が私だけは事故を起さないように誓って、安全運転を心がけたいと思います。

たとえば、三悪の一つ飲酒運転は自分自身に勝つこ

とよって防げると思えます。他に一杯のものが二、三杯になり、ハンドルの握るまじいようにするとともに他の人も絶対に酒はすめず、逆に運転するなら飲まないように注意してやらなければならない。飲酒運転も、なくな

### 道路を拡張して 車道歩道の区別を

相内・公務員

三和 省勝(23)



交通の発展とともに、私たちの生活は進歩しました。その進歩の裏には、毎日あつたえない交通事故の記者が新聞にのります。運転者が悪い、歩行者が悪い、運転操作が下手だから……、これらは、私たち

らないと思えます。しかし、子どもの急な飛び出しなど運転者がいくら注意しても、避けられない事故も沢山あります。やはり、事故は、運転者、家族みんなが注意し、協力しない限りなくならないでしょう。

人間の力で作られ、動かされるものなのです。

三年ぐら前にになりましたが私の道路だからよげるといわんばかりの速さで通り過ぎたため、私はバイクのハンドルを砂にとられ転倒し、今でも腕に向うと傷がうかびます。

私たちの村はまだ完全舗装されていませんので車道歩道を区別できるよう、幅広く道路工事を進めてもらいたいと思えます。

### 歩行者も運転者も

#### 確固たる自覚を

十三・漁業 本荘 珍雄(50)



原因は交通事故によるものだと信じています。ダンブカーの若い運転者の無謀運転のため、一回転してその場に倒され、車は逃走し目撃者の通報により突きとめましたが、このようになことは二度とくり返されてはならないことと、残念でなりません。

運転者が交通法規を守つていたならば、一瞬で済んでい

人間社会の進展とともに道路網はますます整備拡張されて参りました。それと同時に毎日のように交通事故による被害が起きています。

四年前の八月結婚以来二十数年間、一度も病氣などしたことがない妻が、十三歳の上で交通事故にあい、恥骨を骨折し通院するようになり、ついにことしの四月死亡してしまいました。

### 相手の気持になつて

#### ひとつの目的へ進む

太田 保母 木村 房子(22)



走るキョウキと呼ばれる車、年々その数をふやせ

ともにテレビ、ラジオ、新聞はその悲惨な事故のようすを次々と伝えてきます。原因：酒のみ運転、前方不注意、無理な追い越し等あげたらかぎりがない、歩行者側にも、とびだし、無理な横断、左側通行、道路での遊びとこれまたかぎり

ない。運転者側の無謀運転と、歩行者側の無謀歩きがなくなつたら、道路整備のたかおくれが、このまの状態で減らない、すると交通事故は減らないと思うのです。一つの目的に向うのですからドライバー側の気持になり歩行者側の気持になつて進むのでなければ無意味になつてしまつてはならないでしょうか。



(4)

# 応永の乱

## 唐川城合戦の巻①

### 山内 英太郎

唐川城は応永二年(一一六二)の築城であるといふ(一説には永万乙酉元年(一一六五)ともいわれる)。城領半里四方城棟四十八棟城さく六百七十間、城六万に若十棟を建て天険を利した難攻不落と称された城塞であった。福島城から脱出した盛季の残兵と、藤崎城から脱出した安東教季の主従に飯積高たて城かとを合せてうろちていた。応永三十一年五月(一四二四)南部勢は総攻撃をかけたが、天然に備わる要害はいかなる大軍も幾度も敗戦に終わり、徒らに兵馬を失なうばかりである。南部守行の一子義政は山王に入り休せんとしたが、山王の法印に断わられて憤り精舎に火を放し焼き討ちし多くの僧は奮戦し殉死した。宝物は奪取され十三秀

栄以來の山王三千防の一大靈場も烏有に帰した。南部守行は一子義政の妻に安東盛季の嫡利久をめぐらせ和議を結んだ。いわゆる結婚謀略である。この祝いに臣下に唐川城内に送り、秘かに城内の難攻を謀り、籠城から脱出させた。

守行は病におかされ日夜悪寺に臥す身となり、日夜悪夢に犯されて苦しむようになった。これは山王の亡霊に依るものとして、荒げ跡から青銅の金物を集めて十三湊の仏工の手願仏を鑄しめて供養したところ、病は治まり山王の靈験に驚き敬拝した。一方唐川城の安東康季は秘かに城を抜け出し金井城の兵を率いて南部が占領したに諸城を次々と荒しまわったので、この通報を受けた。守行は包圍の軍勢の三分の一を引き連れて岩なかつた。

唐川城内はまた、軍議はまとまらなかつた。康季は諸岳を荒して帰城し守行もまた、包圍陣に加わる事になった。応永三十四年丁未年六月(一四二七)突然総攻撃をかけたが、依然として兵馬の損失は甚しかった。唐川城内に預けられ山と積れに食糧は残り少量となり、それに加えて折からの日照り続きに兵馬の飲料水に窮するようになって来た。安東盛季は教季や一族の長老達を召し寄せて軍議し城を捨て渡島に退き再挙する事に決断した。

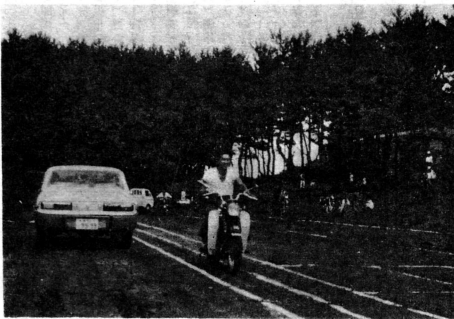
退却は三度に分けて行われた。十一月の初雪の降る日にさかさかゲンギを履き杖を左手についで城から落ちて行った。一部は秘洞から秘かに小泊柴崎城に入った。船隠し間から軍船四隻を仕立て、正長戊申(元年(一四二八)、四月二八)月に兵馬を渡島に移し終つた。一行には十三か所供をして来た山王坊、永善坊、万願寺の東綱坊等て道明法印の呪文により海上はおたやかなり無事に渡道した。この時永善坊は十三城下の国分寺から本尊の不動明王像如意輪観音像(推古天皇)を寄持参した。

(筆者は郷土史家・村史編集員)

## 交通安全運転競技大会

—安協相内支部—

52人が参加、腕きそう



交通安全協会相内支部(白川孝治支部長)では、運転技術の向上をはかるため八日、相小枝グラウンドで交通安全運転競技大会を開きました。

大会には五十二人が参加し日ごろの腕を逞ましました。だがさすがに運転には自信のある人ばかりで、審査員のかたたちも順位を決めるに汗だくでした。

入賞者は次のとおり、  
①(二輪車)  
①鳴海尚志②山内久夫③三和兼人

(大型車)

①三上光治②三和孝雄③佐藤孝治

(普通車)

①山内久夫②佐藤孝雄③安俣雅雄

(耕運機)

①三上光治②奈良正弘③三和隆

(団休)

①岡本市雄、三和直次、三和兼人

②三上光治、山内久夫、奈良正弘

③三和孝雄、相川常雄、佐藤孝治

## 編集室から



○：ごらんのように本号は八ページ建てとし、写真を主体にした広報をつくってみました。

○：長寿者の番付は、当初七十五才以上にする予定でしたが、それでは早すぎるるの声があり八十才以上になりました。七十五才ではまだまだ若いというお年寄りに配慮しました。

○：秋の交通安全運動に寄せて、秋のかたの意見感想を収録しました。事故防止はなかにしてもひとりひとりの自覚にあるようです。原稿をお寄せくださったかたがたに感謝します。